

富士見高原病院 消化器科 外来診療日 週5日に拡大



消化器科の診療体制を充実させた富士見高原病院のロビー

富士見町の県厚生連富士見高原病院は、消化器科の診療体制を拡充した。4月に医師が2人増えたことを受け、外来診療日を週2日から5日に拡大。消化器科の患者の診断結果や治療方針を議論する週1回の検討会も新設し、的確な診療と治療につなげる。消化器科は腹痛や下痢といった症状を訴えて訪れる患者が多い。これまで1人の医師

が週2日、外来診療をし、残りの日は内科の医師が患者を診ていた。5月11日以降の新体制では、消化器科の5人の医師が交代で診療。専門性を生かすとともに、内科医師の負担軽減にもつなげる。

同病院は胃がんや大腸がんといった消化器系悪性腫瘍の患者について、在宅終末期医療の実施を検討中。体制の拡充を終末期医療にも生かしていきたいとしている。

消化器科の外来診療は毎月、水と金、土曜。安達互院長(60)は「待ち時間が減り、予約が取りやすくなるなど患者にとつてのメリットは大きい」としている。

消化器科の診療体制拡充

専門医増員で外来週5日に

富士見高原病院

富士見町の富士見高原病院は、消化器科専門医の増員に伴い、消化器科の診療体制を拡充した。外来診療日をこれまでの週2日から週5日に増やしたほか、診断・治療方針などについて話し合う検討会を充実した。同病院は「消化器科の専門医による診察体制が整ったことで診察までの待ち時間の短縮や医療の質の一層の向上につながる」としている。(保延悟)

消化器科専門医師2人が4月に増員されたことで今月11日から消化器科の診療体制を拡充。内科、外科双方の医師が連携してスムーズな診断・治療に当たる体制を整え、消化器科の外来診療日を月・火・水・金・土曜日(土曜日は第1・4週)に増やした。受診内容は胃腸が中心だった検討

くなり、安達互院長(60)は「症例検討会が充実した」と話す。同病院は今後、消化器系悪性腫瘍の在宅における終末期医療や看護の実施も検討していきたいとしている。